



土木計画学の役割とその実践を考える

Evidence に基づいた政策提言



東北大学

青木 俊明

東北大学 大学院 国際文化研究科





依頼内容

1. 発表者のこれまでの取り組みの紹介
2. 土木計画学における研究・実践のあり方とその課題
3. 土木計画学関係者が行うべき活動の方向性
4. 土木計画学コミュニティを盛り上げ方

拙い私見ですが、今晚の酒の肴になれば幸いです





自己紹介

経歴

- 1970年 群馬県生 46歳
- 東北大学 工学部 原子核工学科 卒業
- 東北大学 大学院 情報科学研究科 修了(修士・博士)
- 国土交通省 国土技術政策総合研究所
- 東北工業大学 都市マネジメント学科
- 東北大学 大学院 国際文化研究科 准教授

研究課題

- **合意形成** および向社会的行動の心理分析
- 居住地選択の心理分析
- 購買行動の心理分析
- ソーシャル・キャピタルの醸成・効果

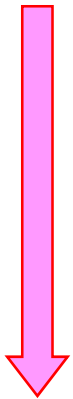
応用社会心理学





なぜ心理学？

- スタートは数理計画
- 数理計画への不安と疑問
- 事例研究の多さに対する学問的疑問



土木計画学の存在意義？

- なぜ土木計画学が生まれたのか？
- 土木計画学を学ぶ利点は？
- 何に役立つのか？

自分なりの答え

- “土木計画学 = 暮らしの像を描き、その実現策を提案する学問”
- 人間をより深く理解する必要があるのでは？
- 社会心理学への傾倒と応用





自分の研究スタイル

テーマ選定

- 何に役立つか？を重視
- 直感を退けない。しかし、吟味も必要。

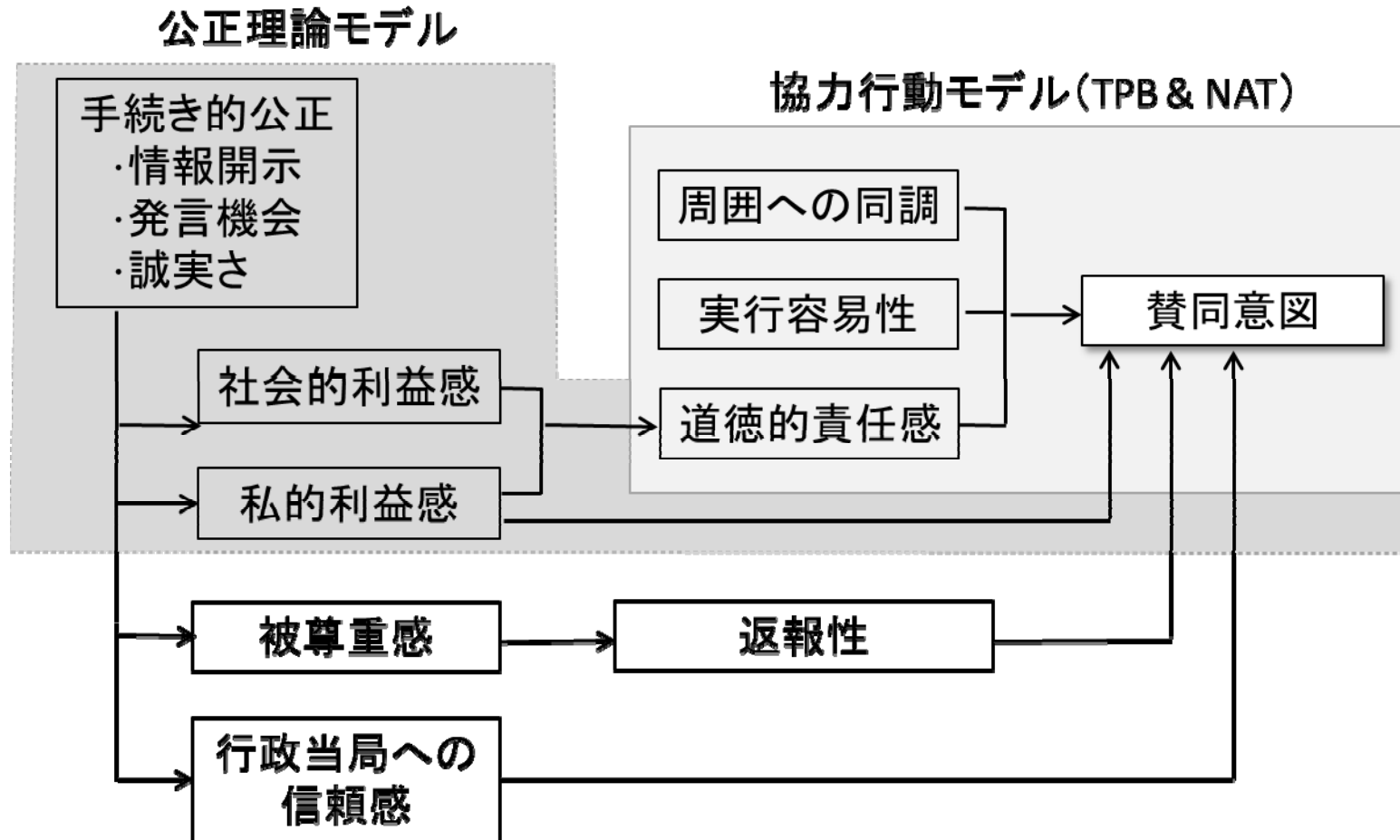
アプローチ

- 現象発生のなぜ？を重視
- “原因と結果の関係”への理論的説明を重視
- 説明の前提条件と適用限界の明確化
- 常識に囚われない発想





合意形成研究の例



- 心理学理論の応用
- 新しいツールの適用→新たな説明可能性
- 新たな改善方策の発見



交通安全研究の例

Goal Priming Theory (ex. Bargh, Chen, & Burrows, 1996)

先行刺激 (priming) の受容が無意識的に特定の行動 (目標型行動) に対する促進効果を及ぼすこと。



- カラー舗装のメッセージ理解
- プライミング効果
- 認知的不協和による行動変容
- 非着色路でも安全運転に変化

土木計画学の研究・実践のあり方

□土木計画学の規範像(定義)を明確化すべきでは？

➤土木工学が計画学を必要とする理由とは？

→理想像の構築とその実現には専門知が必要

➤計画学者に求められる資質

→科学的素養＋実社会への深い理解と経験

→さらに高い公共心も必要

↳ 学問に裏付けされた知識

学問的裏付け(evidence)に基づいた
“暮らしの像”と“その実現策”の提案



土木計画学の活動の方向性

□ 実践への関与

実社会と人間の行動をよく知ること

□ 先端的学問の吸収と新たな知識の創造

科学的知識の更新と創造

□ 学問と実践の両立

土木計画学自体もPDCAサイクルが必要では？

□ 社会全体への広報や問題提起

社会全体の意識改善がなければ、理想像の構築・実現は不可能では？





コミュニティの盛り上げ方

“盛り上げること”より、“**盛り上がること**”が重要では？

1. 知的好奇心が満たされること

先端的研究方法の導入
先端知識の適用
意外な分野の知見の適用, etc

2. オープンかつ協調的な雰囲気

3. 恥ずかしい話ができること

異分野からの参入を歓迎できる土壌
異質な方法にも寛容
“討論(闘論)”ではなく、友好的議論, etc

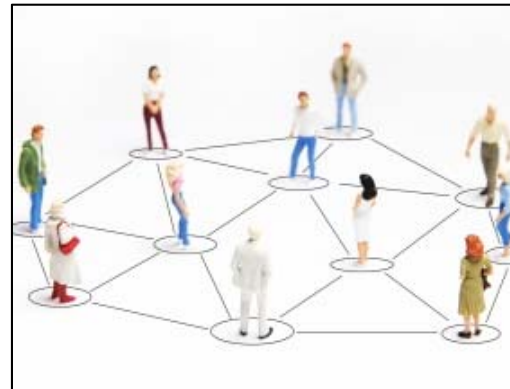
理想を語れる場であること
失敗を語れる場であること
未成熟な議論ができる場であること, etc





異分野修行の大切さ

- 他分野には、応用可能な方法・知識が豊富
- 土木計画学の改善点の発見にもつながる
- 多くの人々が他分野で学び、それを持ち帰れば、大きな飛躍につながる
- **なによりも、新たな知識の習得は楽しい！**



考古学＋社会学 → 普遍的な社会行動原理の解明





まとめ

土木計画学の役割

学問的裏付け(evidence)に基づいた“暮らしの像”と“その実現策”を提案すること。産学官が協力し、それに必要な知見を報告し、共有する場が土木計画学。

各自が土木計画学とその役割を定義し、議論を重ね、共有化していくことが、真に役立つ学問分野としてのアイデンティティ確立につながるのでは？

Thank you so much for your attention.

